



社会福祉法人 大塚子ども
のぞみの会 ふれあい館

分園長 関 弘子

平成30年5月発行 No.117

すがすがしい新緑の季節を迎えています。先日大塚西公園に散歩に行ったときに、幼児クラスのお子さんがおたまじゃくしを捕まえてきました。毎日のように眺めては、「足が出てきた!」「何か食べてるよ!」黒くて小さい生き物の観察をしています。

「おたまじゃくしになってみよう」と声をかけたらきっと見事なおたまじゃくしを表現してくれると思います。また夏野菜の苗植えのお手伝いをしてくれました。大きく育つまでには、水をあげたり、草むしりをしたりまだまだ続くお手伝い…お子さんは興味を持って感覚を使って体験した事、感じた事が土台になって世界が広がっていきます。自然はお子さんの好奇心をくすぐり、たくさんのお話を学ばせてくれます。

懇談会でお伝えしましたが、お子さんたちが成人する頃には私たち人間の、知識(スキル)今以上に人工知能(AI)が代行する時代が来るでしょう。その時に必要な力が、得たスキルを他者とどう使っていくのか協働する力、思考する力、コミュニケーション力といわれる非認知能力といわれます。

この力はこの幼児期の体験がとても大切になってくるといわれます。コンピューターを使いこなすスキルも必要ですが、今お子さんに大切なことは何でしょうか…。一緒に考えていきたいと思ひます。

4月・5月の0・1歳児クラスのお友達、特に新しいお友だちはお母様から離れるのに大泣きです。自然なことです。。お子さんの気持ち代弁しますと「お母さんがいい!知らないところにおいてかないで!戻って来て」とこんな感じでしょうか?

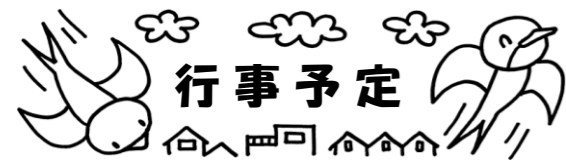
私たち園の職員は泣かさないように抱っこしてあげたり、なだめたりしてその時間を過ごすことは本当にお子さんが望んでいることなのではないでしょうか?抱っこして欲しい人はお母さんです。抱っこしても泣き止まないお子さんは抱っこされたくないのです。泣きたい気持ちは他にあるのです。保護者の方からみたら「何で泣いているのに抱っこしてくれないの?」と思うかもしれませんが、お子さんからしたら抱かれたいのに、自分の思いを尊重されない経験を一日何度もしてしまう事になります。

私たち職員は、温かいまなざしでお子さんを見ています。お子さんが求めてきた時にそっとその気持ちに寄り添い、気持ちを受け止めていきます。

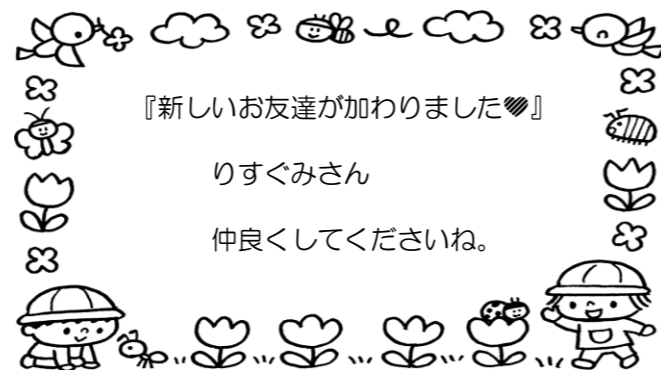
愛着の形成の基本が「不安な時にその気持ちを解消できる関係性を育む事」を大切に保育をしています。もちろん抱っこを求めるお子さんには抱っこをして落ち着いたら遊びに誘ってみます。至らないこともあると思いますが、どうぞ温かいまなざしで職員を応援してください。

これからも保育園のことを知っていただき一緒にお子さんの事を考えていきたいと思ひます。また参観を増やして欲しいという要望も聞かれていましたので来月号でお知らせしますが、保育補助や絵本の読み聞かせのお手伝いをしていただければと考えています。保育園の事に参加していけるようにと考えています。

園長 高尾 順子



- 8日 (火) 身体測定
- 16日 (水) 避難訓練
- 17日 (木) 全園児健康診断
- 18日 (金) 誕生会



見つけたよ♪

《ひよこぐみ》

4月に入園して1ヶ月、安心出来るお部屋と大人を見つけたよ!と言わんばかりのひよこぐみさん。「おはようございます。」の一声で、ニッコリ笑顔で近づくとひよこぐみさん。いつものお部屋、いつもの大人が、ちゃんとわかるんですね。

あとぼうよ



あったかい!



《りすぐみ》

お散歩に出かけつまずいて手を着いたら…しばらくじっとしている〇〇君「あったかいね。」と歩道が日ざして温まっているのを言葉にすると、嬉しそうに立ち上がりました。そしてお散歩に出かけると思いだしたかのようにしゃがみこんでは歩道を触りニッコリする〇〇君。温かいという言葉を手のひらで感じることでしっかり認識しているようです。

《うさぎぐみ》

「赤ちゃんねてるから」と人差し指を立て口に当てて”静かに”と伝えているお友達。ひよこぐみさんやりすぐみさんに、そっと並んで“小さいな…”と見くらべているうさぎぐみさん。2歳児さんらしくなっています。

「たかいねー」と太い木に両手を広げ抱きついてお友達。「太い木だね。」と言葉を伝えると不思議そうに“ふとい?!”と確認するかのように手に力を込めていました。自分の知っている言葉を使い表そうとしているうさぎぐみさん。2歳児さんは、言葉をたくさん覚える時です。「違うよ」ではなく、表そうとしている気持ちを汲みながら、正しい言葉を伝えていってください。



たかいねー



シャボン玉 たか~い

まってえ~



シャボン玉 あった!

シャボン玉!

『モンテッソーリ教育って?』

幼い子どもに「敏感期」という大切な時期があることをご存知ですか?入園説明会や前年度見て頂いたビデオの中にありましたが、幼少期に一定のことに對して感受性が特に敏感になる短い時期の事を言います。

マリア・モンテッソーリは、この敏感期を知っているかないかで、子どもを見る目がずいぶんちがってくる。「子育てが『たのしくてたまらない』か『つまらない』かを分けるカギにもなります。」と言っています。

では、モンテッソーリの子育てをするポイントは何でしょう。

- ①大人と子どもは違います
行動の目的が大人は「結果」ですが、子どもは「過程」です。
- ②子どもの動きをよく見ましょう
「なぜそうするのか」「何に困っているのか」をよく見ると、どう手助けすればよいかははっきりしてきます。
- ③子どもはよく見ています
何かを伝えたい時、黙ってゆっくりと、やってみせるのが一番です。よく見ています。
- ④伝え方にコツがあります
一度のあれもこれも欲張らず、一つの事だけ伝えましょう。次に順序立ててゆっくりとやってみせましょう。一つひとつ丁寧に、正確に見せることで、わかるようになっていきます。
- ⑤繰り返しやることで成熟します
繰り返し同じことをやることで充実感や自信を得て、今度は次のステップへチャレンジする意欲がわいてくるのです。



5つのポイントを踏まえ、子育てを楽しめるといいですね。

これからも、お子さんの楽しい成長のエピソードをお伝えしていくようにしたいと思います。

